

ヒアリング内容								
No.	I 新たな計画に関する事 (策定時期、見せ方、名称等)	II 計画素案の内容に関する事						
		I 新たな計画のあり方に関する事	2 まちづくりの理念に関する事	3 まちづくりの経営指針に関する事				③ 推進に関する事
				① 解決すべきテーマ、目指すべき目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事			
				A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関する事		
A		○課題の解決策も含めて常に見直していくことは良い。	○負担が生じることや、痛みを感じるについて、「分かるけど、でも」となるのは「理解」しているが「納得」はしていないこと。市民の「理解」を「納得」に変えることが共創力の強化には不可欠。 ○市民の理解と納得を得るためには、事業者や学校との連携も重要。中立的な学校が行政と事業者を上手く橋渡しし、地域課題の解決が市内企業・業界の利益につながるような形を産学官で構築できれば良い。	○市民の方にわかって頂くことが大事で、「バックキャスト」などの言葉の意味がわからないだろう。「将来的にこうなるから、今、こういう取り組みをする」という意味を説明し、その上で、具体的な例示を示すと良い(例えば学校の統廃合などのケースを例にとって)。		○いわきは広域のため全ての地域を同じような形で対応するというのは困難。地域の特性に応じた形で、その地域の方の住みやすい姿を目指す手法はそれぞれ変えるべき。その中で、人口減少に伴い増加する固定費負担を減らす取組みを進めていくべき。	○計画の進捗や結果に基づき計画を見直す報告会を行うなど、市民に結果を見せる方法を考えること。	
B	○計画は今作った方がよい。 ○例えば、A3で市民が理解・納得できる資料をつくるなど、大事なものは市民に分かりやすい計画とすること。	○予算の制約などを分かっていたくために、財政状況を市民に分かりやすく伝えるようにした方がよい。	○まちづくり基本条例を市民に理解いただくことが進め方として重要。			○新たに創業・起業する方が少ない。	○市の支出面をしっかりとチェックしていく必要がある。	
C	○読む人が限定されてしまわないよう、年齢などにより伝え方を変えると良い。 ○計画の名前は、老若男女問わず分かりやすいものであれば良い。 ○新たな計画の内容については全体的に同意できる。							
D		○性別・年齢・職業などにより、何を優先させるかを絞り込んでいかなければならない。高齢化が進むと、若い世代が、やりたいことを全てやることはできなくなるということが考えられるため、資源の重点選別化は理解できる。		○コロナ禍で、逆に無駄なモノ・行動を省くことができたとも考えられる。		○コロナ禍の中、精神的にも、金銭的にも「女性が働く重要性」を認識し、改めて、女性が働ける環境整備が必要と感じた。 ○UIターンにも期待したい。コロナを契機にいわきをPRできれば良い。		
E	○計画に参加した人でもなければ、興味ないもの。 ○プロセスや考え方を残すという考え方は理解するが、文字より、絵や動画の方がイメージの共有ができる。イメージに残りやすいものを(社訓のように)。	○市民にとっての分かりやすさや解釈は、人それぞれであり、全員に等しく伝えるのは難しいかもしれない。	○共創に関連して、市民団体等が担える行政サービスもあるかもしれない。市民団体等による行政サービスの付加価値アップ→交流人口増→商売繁盛の好循環が生まれる可能性もある。			○アニメやキャラを活かしたまちづくりがあるが、継続性が必要。	○共創に関連して、「副業」がキーワード。ボランティアでは継続しない。必ず対価を払うことが必要。人手不足は、様々な人の副業で補える。 ○計画をどう作るかより、どう進めるかが大事。	

ヒアリング内容								
No.	I 新たな計画に関する事 (策定期間、見せ方、名称 等)	II 計画素案の内容に関する事						
		I 新たな計画のあり方に関する 事	2 まちづくりの理念に関する 事	3 まちづくりの経営指針に関する事				③ 推進に関する事
				① 解決すべきテーマ、目指すべ き目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事			
					A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強 化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの 充実強化に関する事	
F	○素案の文書作成は非常に大 変な作業だったと思う。多く の市民の方に理解を深めてい ただくべき。		○共創というが、市民は自分 の身に降りかかったことしか 関わろうとしない傾向があ る。自分のことばかり考える 人が多くなり、隣近所の付き 合ひもなくなり、結果とし て、自助・共助・公助のう ち、共助の視点が薄れ始めて いる。			○小さな頃から人と人との関 係性、人情を教えるという意 味で「教育」は最も重要だと 考える。	○平地区に支所があれば、地 域の人々が集い情報交換でき るとは個人的に思う。しかし ただ建物を作ればいいという ものではなく、維持管理も含 め、今の時代、慎重に考えな くてはならない。	
G	○（以前と比べ）やわらか く、納得できる文章になった と思う。	○目まぐるしく環境変化があ るなかで、常に改善・更新を 図っていくべきと思う。				○地域を支える多様な人材の 確保・育成として、「高齢者 の様々な分野での活用」は、 認知症予防にもつながり、市 の医療費等の部分でも重要だ と思う。 ○中央公園や三崎公園の一部 をドッグランにすれば、市の 収入にもつながるかもしれない。	○コロナ対策用品で大きなサイ ズのグローブが不足しており、 そういった状況を届けら れる掲示板のようなものがある と良い。 ○治水事業の見える化は、安 全・安心の取組みが進んでいる ことが市民に伝わりやす い。	○審議会やまちづくり市民会 議もWEBで開催できるように した方がよい。
H				○コロナにより、社会は変容 していくといった視点をもっ と盛り込むと良い。				
I					○市民と市の関わりの見える 化が大切。 ○市民、事業者等に新たな計 画の考えを一番効果的に伝え る手法として、まずは、まち づくりに常に携わっている市 職員一人一人に浸透させるこ とが肝。		○地域の中での自助・共助・ 公助が高齢化社会の中で、よ り必要となる。 ○人材育成は重要だが、具体 的には何をやり、人と人とを どう結び付けるのが課題。 特に市民の「SOS」が届き づらく、その観点では人材育 成は必要	

ヒアリング内容							
No.	I 新たな計画に関する事 （策定時期、見せ方、名称等）	II 計画素案の内容に関する事					
		I 新たな計画のあり方に関する事	2 まちづくりの理念に関する事	3 まちづくりの経営指針に関する事			
				① 解決すべきテーマ、目指すべき目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事		
		A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関する事			
J	○今までの意見をまとめたものであり、ストーリーが確立されていて良いと思う。 ○計画を要約した <u>概要版</u> を作成してはどうか。 <u>計画の存在を分かってもらうチャンス</u> ととらえ、ジャンル別に整理したり、各世帯に配布するのも良いかも知れない。		○市民との共創が広がっていくことは良い。	○バックキャストの意味が不明	○市民がまちづくりの担い手になるためにも、 <u>自分の住んでいる地域を知る必要がある</u> と思う。地域を知るという教育の視点があるとよい。 ○地域の共創が広がっていったときに、 <u>地域に決定権をもたせる仕組みをどう作るかが大事</u> になってくると思う。		
K	○今年度に計画を策定する方向で良いと思う。			○コロナや水害みたい新たな危機に対応できるのか。 ○国の動向を参考にしながらまちづくりの目標などを検討することは大切。			
L	○非常に立派にまとめられていると思う。	○市民に行政が何を目標として、 <u>重点的に、分かりやすく、</u> という視点が大事。 ○ <u>その時代・時代の人たちが、その能力で、共助力を発揮し、次の時代に人を繋いでいかなければならない。</u>			○市民との共創として、例えば、「山や森に行った時にゴミを捨てない、木を傷つけない、煙草を捨てない、さらにはいわき産の木材を使う」など、身近で何気ないことが共創につながると思っている。	○森林が果たしている水源涵養機能等が、 <u>市民の安全・安心確保に大きな役割を果たしており、</u> 林業も木材販売の役割だけでなく、緑のダムの手入れなどをおしてまちづくりを陰ながら支えている。堤防造設だけが防災の取り組みではない。全ての市民が恩恵を受けている。そのほか、SDGsや持続可能性、生物多様性にも貢献する森林整備について、広く市民に発信し、理解と協力を得られるようにしてもらいたい。	
M		○「 <u>まちづくりは常に未完成</u> 」という部分は非常に良い。					○ <u>毎年見直しを行っていくという部分</u> はいいと思うので、もっと強調したほうがよい。 ○補助金などで適正でないものは見直していくなど、市で支出しているものをチェックしていく必要がある。 ○市民が求めているものには、予算が付くようにしてほしい。

ヒアリング内容								
No.	I 新たな計画に関する事 （策定時期、見せ方、名称 等）	II 計画素案の内容に関する事						
		I 新たな計画のあり方に関する 事	2 まちづくりの理念に関する 事	3 まちづくりの経営指針に関する事				③ 推進に関する事
				① 解決すべきテーマ、目指すべ き目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事			
					A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強 化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの 充実強化に関する事	
N			<p>○これまで行政主導でまちづくりが進められてきた側面もあり、いきなり「自治体運営が厳しい」というのは説得力がない。行政ができないから、市民がやらないといけないと聞こえてしまう。行政が行うべき公助をしっかりと行った上で、「行政はここまでやるので、ここはお願いしたい」という形でまちづくりの役割を示すのも良いのではないかと。</p>	<p>○コロナや台風の対応をもっと盛り込むべき、という意見があるかもしれない。</p>	<p>○民間の力を引き出す公共民間の対話の場は重要。最近、まちづくりに取り組む企業も増えている。</p> <p>○子どもたちの参画も重要で、例えば、SDGsをテーマにするなど、まちづくりについて考える機会を創るべき。</p>	<p>○デジタル化を進めると、人と人とのつながりが希薄になるなどの懸念もある。投げっぱなしにならないというニュアンスを入れたほうが良い。</p>	<p>○重要なのはPDCAのCであり、市は市長が「経営感覚を持って」推進していく必要がある。</p>	
O								

ヒアリング内容

No.	II 計画素案の内容に関する事							
	I 新たな計画に関する事 (策定時期、見せ方、名称等)	I 新たな計画のあり方に関する事	2 まちづくりの理念に関する事	3 まちづくりの経営指針に関する事				
				① 解決すべきテーマ、目指すべき目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事			③ 推進に関する事
					A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関する事	
P	<p>○「行政の計画」「中長期の目標を定めない計画」になる懸念を持っていたが、「共創のまちづくりのための計画」であり、中長期の課題やテーマ、目標が示されたので安心した。</p> <p>○理念と指針を総称して「プラン」と称することについては問題ない気もするが、条例を含むため「プラン」とするかは行政内部で整理してかわらないと思う。</p> <p>○答申をはじめ、対外的な説明の際は、計画の概要をはじめに主として説明し、計画のあり方を見直したことなどは参考として説明する手法も良いかもしれない。</p>	<p>○国の動向なども踏まえ、計画をコンパクトな形にして、できる限り機動的な対応ができるようにするのは良いと思う。一方で、他の個別計画等は、「総合計画に基づき」といった形で位置づけられていることが多いので、計画体系を簡素化するにあたり、今後の他の個別計画等との関係性をしっかりと整理しておく良いと思う。</p>		<p>○中長期の社会像に関して、「危機の突発的な発生の常習化」は、「常態化」の表現の方が相応しい。</p> <p>○市(社会)の目指すべき姿については、「広域性や首都圏からの近接性」など、本市に関する記載があるが、市民の目指すべき姿については、世界中、どこに住んでいる人でも構わないようなニュアンスになっている。「本市で住んでいる市民の方や本市に関わる方」を主体としたり、居住地という表現を工夫するなど、本市に根差した形にしてはどうか。</p>		<p>○創生総合戦略が「ひと・まち・しごとの充実強化」の部分にそのまま入るのではなく、創生総合戦略は、政策広範にわたる計画の一つで、その中から経営指針に位置づけられる事業があるという形になるべきだと考える。他の個別計画等と同じような形で整理した上で、結果として、創生総合戦略の位置づけの多くが経営指針に位置づけられることはあると考える。</p>	<p>○「住み続けたい、いわき」の一番の要素が安全・安心であることを前面に出しても良いのではないかと。災害だけでなく、暮らしや雇用が確保されていることも含めた生活全般に関する安全・安心をテーマにしても良い。</p> <p>○災害でも大きなテーマとなったが、これからは自助・共助の範囲が広がり、重要性を増すと考えており、そのために「共創力の強化」という重点テーマもある中で、「行政サービスの充実強化」とすると、行政の取り組みで安全・安心を確保するといった誤解を招いてしまう可能性もあるので、重点テーマの表現を工夫してはどうか。</p> <p>○自助・共助の重要性が増す観点から、「平常時のみならず、緊急時においてもしっかりとセーフティネットの確保に向けて対応できる」といった表現は、「平常時は自助・共助の仕組みを整える」「緊急時は行政をはじめコミュニティ組織、地域を越えた連携体制など臨機応変に対応できる仕組みを整える」のような形で表現を工夫してはどうか。</p>	<p>○5年間を見据えた上で、毎年、取り組みや事業群を見直し、場合によっては新たな事業の追加や位置づけた事業の見直し、重点テーマの修正もあるということに理解したが、そのサイクルの中で、まちづくり市民会議などを活用すると良いのではないかと。</p>
Q	<p>○コロナ禍の今だからこそ計画を策定して市の方向性を決めるべき。</p> <p>○計画に柔軟性があり、良いと思う。</p>		<p>○行政にもできない部分があるだろうから、できない部分は青年会議所などの外部団体に任せるなど、外部を巻き込んで良いと思う。</p>	<p>○将来を担う子供たちにいわき市の魅力を話せるようになってもらいたい。そのために、郷土愛・帰属意識に関する記載があっても良いかもしれない。</p>		<p>○人口減少が進み、財源確保が難しくなる中、お金を使わなくてもできることはないのかといった視点も必要。</p>		

ヒアリング内容							
No.	I 新たな計画に関する事 (策定時期、見せ方、名称等)	I 新たな計画のあり方に関する事	2 まちづくりの理念に関する事	II 計画素案の内容に関する事			
				3 まちづくりの経営指針に関する事			
				① 解決すべきテーマ、目指すべき目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事		
A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関する事					
R	<p>○様々な意見はあろうが、<u>こういう計画だからこそ今つくる必要がある。</u></p> <p>○「基本プラン」は固く感じる。「××計画」や「△△プラン」など固い印象になり、手に取りにくい。極端な話、「いわき共創まちづくり」だけでも良い。</p>	<p>○柔軟性をもったつくりであり、これまでまとめてきたものなので、基本的にはこれでよいと思う。</p> <p>○計画は固定化したものではなく、この計画のように柔軟性をもった形であるべき。</p> <p>○何が起きるか分からない世の中、先の読めない時代において、「<u>まちづくりは常に未完成である</u>」はまさにその通りだと感じている。</p>				<p>○人口を増やす努力として、<u>首都圏の機能を地方に移したり、テレワークを推進したり、企業を誘致したりなど、コロナ禍だからこそその取り組みを進めれば、地方の人口は増えるのではないか。</u></p>	<p>○まちづくりをするうえで、<u>支所との連携をもっと推進</u>してみてはどうか。支所職員の方が地域住民に近い。住民も支所なら気軽に立ち寄れる。</p> <p>○地区毎のまちづくりでは、イベントのみならず、変化をつけてもよいと思う。市街地の人々だけの交流だけでなく、山間地や上流下流等に住む人々も含め交流する機会があってもよいと思う。</p>
S	<p>○昨今の危機事象に柔軟に対応できる考えを早期に示すためにも計画を今年度策定すべき。</p> <p>○「基本プラン」だと、期間やいつまでに何を実施していくのかなどがイメージされる。常に更新を図っていく性格を有しているため敢えて名称をつけるのであれば、「ローリングプラン」などが良い。</p>	<p>○「SDGs」が制約と読めるような表現があるが、世界中の各ステークホルダーが共通の社会課題、統一的な価値観を把握できた。その他の例示されている想定していなかった事象にも、プラス面とマイナス面がある。</p>		<p>○経営指針で①いきなり「分断」ではじまることと、②その解決方法が提示されていないのが気になる。単に「思いの共有と連携」というあいまいな表現ではなく、「先の震災など、過去の経験を活かす」とか、「十分な相互理解とネゴシエーション」などが良いのではないか。</p> <p>○「中長期で目指す目標・テーマ」について、「<u>住んでよかった、住み続けたい、いわき</u>」を一言でいうと「well-being」ではないか。新たな計画の特徴を一言で言う場合の言葉を「well-being」としてはどうか。市長がいわきの歴史を炭鉱-観光-復興、そして次に目指すは健康と述べていたが、健康はより意味を広げるとwellness。wellnessには個人的なイメージがあるが、<u>地域社会の望ましい姿・状態として「well-being」というキーワードを使うことを提案。</u>「いわきの目標は何ですか？」と言われたとき、「住みよいまち」より、「well-being」なら世界にも通用するワードになる。</p> <p>○本文と図表で整合が図られていない部分がある（市民と市の目指すべき姿の項目と関連図ほか）</p>		<p>○「人口減少に歯止め」は現実的ではないと思われるため、「<u>最小限に食い止め</u>」「人口減少時代でも安心安全とか、持続可能なまちづくり」などが良いのではないか。</p>	

ヒアリング内容								
No.	II 計画素案の内容に関する事							
	I 新たな計画に関する事 (策定期間、見せ方、名称等)	I 新たな計画のあり方に関する事	2 まちづくりの理念に関する事	3 まちづくりの経営指針に関する事				
				① 解決すべきテーマ、目指すべき目標等に関する事	②重点的に取り組む事業に関する事			③ 推進に関する事
					A 共創力の強化に関する事	B ひと、まち、しごとの充実強化に関する事	C 暮らしに寄り添う行政サービスの充実強化に関する事	
T	○具体的に何をやるかわからない、漠然としているという印象がある。	○需要があるといって、高齢者ファーストのまちづくりになるのは、違うのではないかと。重点選別化の考え方が重要。		○コロナにより魚は流通が止まってしまった。スーパー向けは今までどおり流通しているが、ホテル、飲食店向けは営業自粛があり、需要が減った。魚の値段も下がっている。	○市内の地域間でも様々な差があり、地区内でも <u>地区の活動に参加する人がいなくな</u> ってきていると感じる。	○住みやすさの先に「魅力」という部分がないと、若い世代がいなくなってしまうなど、今後厳しいと思う。 ○「IT化」と「人と人の繋がり」は相反する部分がある。 ○労働力を外国人に頼らざるを得ない社会になってきていると感じる。		